

卒業式・入学式への対応

平成23年3月11日の東日本大震災後、真っ先に思ったことは、「卒業式と入学式が滞りなく開催できるのか」また、「卒業式を控えた学生と大学院生に授与することになっている学位記に被害が発生していないか」ということだった。

幸いにも式典会場である体育館、そして保管してある学位記に被害が出ておらず、それを確認した時にはとても安堵したものである。しかし、同日の夜から一般の被災者の受け入れが始まり、卒業式と入学式に使用する4号館の教室、本館の配布物の準備・保管部屋などが臨時の避難場所となっていた。

時間が経つにつれ、今回の震災の規模が我々の予想をはるかに超えていること、そして、ここ石巻をはじめ、多くの学生の帰省地である岩手県から福島県の沿岸地域が甚大な被害を受けているという信じ難い状況が、テレビやラジオを通じて徐々に明らかになってきた。

震災の翌週の3月18日(火)、大学としては苦渋の決断となる、「卒業式」の中止を決定、学位記の授与を3月20日から事務課前に行うこと、併せて、入学式を延期することが決定した。

3月20日(日)、大学本館事務室前に学位記授与会場を設置。午前10時頃から、学内に避難中の卒業生と大学院修了生の15人に対し、経営学部生と

大学院生へは坂田隆学長より、理工学部生へは鈴木均理工学部長(当時)より学位記が授与された。参列したほとんどの学生は普段着や作業着で、正装姿で出席できた学生はわずか1人であった。

災害後の混沌とした状況ではあったが、この準備に当たった教職員全員が、「学位記授与を卒業生の記憶に残る良い式典としたい」との思いだった。卒業生が坂田学長と鈴木理工学部長、山崎省一学生部長から祝辞をいただいた際には、その場に立ち会った教職員の一人ひとりが言葉では到底言い表せない思いでいっぱいとなり、目を潤ませていた。

翌日から、卒業する学生や大学院生が大学を訪れるたび、坂田学長、鈴木理工学部長、相良勝利経営学部長は、他のどんな業務よりも優先して学位記授与を行い、お祝いの言葉を学生に贈っている。

3月15日(火)より9月末までの予定で宮城県石巻合同庁舎が本学体育館へ移転する準備が進められていたため、入学式は例年とは異なる場所で挙行する必要があった。本学開学後数年間は、森口記念館で式典が執り行われていたことから、今年の新入生には同館にて式に臨んでいただくこと、保証人の方には周辺の大教室にてライブ映像を見ていただくという形に落ち着いた。

5月22日(日)午前11時より、落ち着きを取り戻したキャンパスで入学式を挙行。スーツ姿の初々しい

新入生が新たな期待と希望を胸に、緊張した面持ちで式典に出席した。

式の終了後には、「新入生ガイダンス」が行われ、佐々木万亀夫学生部長、大木章央学生会長から学生生活や課外活動の紹介がなされ、また、遠方より駆けつけた本学応援団OBから、新入生に心のもったお祝いのエールが送られた。



宮城県北部連続地震による被害

<入学生総代宣誓>

本日は私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙げて頂き、誠にありがとうございます。日高理事長、坂田学長をはじめ、ご来賓の皆様には温かい励ましの言葉を賜り心より御礼申し上げます。

私は、平成15年度に起きた宮城県北部連続地震を経験しました。当時の震災で小学校校舎が崩壊、卒業までに新校舎建設が間に合わないと言われた状況の中、全国からのご支援、ご協力のおかげで新校舎第一期生として無事に卒業を迎えることができました。多くの方々から温かい励ましの言葉を頂き、勇気づけられたことを思い出します。

しかし、今回の震災は、当時より規模が大きく、日本に甚大な被害をもたらしましたが、全国の方々はもとより、世界中の多くの方々から励ましの言葉や支援が寄せられました。この震災で、停電、断水、食料不足などの経験をし、不便な暮らしを強いられたものの、皆で協力することの大切さ、思いやりの心など、一人の力は小さいけれど多くの人と力を合わせれば大きな力となることに改めて気づかされました。これから、日本がどう対応していくのか、そして、私たちひとりひとりに何ができるのかを真剣に考えなければならない時にきているのだと思います。

今、日本が一丸となって、この辛さや悲しみを乗り越えようとしています。恵まれた時代に生まれた私たちは多くの人に支えられ、助けられていることを決して忘れることなく、石巻専修大学23期生として、社会に貢献できる人間となれるよう常に向上心、探究心をもち精一杯努力することを宣言いたします。

平成23年5月22日

新入生総代 理工学部情報電子工学科
石巻北高等学校出身 五井俊好

1 その時、大学は

2 大学の被災状況

3 地震直後からの大学の対応

4 地域社会への貢献

5 各学部・委員会などの対応・動向

6 建物と地盤について

7 震災を振り返って

資料編

地震直後からの大学の対応

本日は、東日本大震災の復旧最中の大変困難な状況の中で、私たち新入生のためにこのように盛大な入学式を開催して頂き、誠にありがとうございます。

日高理事長、坂田学長をはじめ、諸先生方より激励のお言葉を賜り、心から感謝申し上げます。

私たちは、本日石巻専修大学大学院十九期生として入学致します。

東日本大震災によって多くの物が失われ、私は自分の無力さを大いに痛感しました。自分に出来る事は何かあるのか、何をすべきなのか考えた結果私は、ある一つの答えを出しました。

それは私の専門分野である情報工学において、より深い知識と高度な技術を身につけ、それを社会に還元し、復興支援への礎の一つとなることです。

その為にも日々の研鑽を怠る事なく、21世紀の社会の担い手として、より良き未来を創るという確固たる覚悟と決意を持って、大学院での生活を過ごして行きたいと考えています。

これからご指導頂く諸先生方に敬意を表し、各自が目標に対して主体的に取り組み、壁にぶつかろうとも諦めることなく挑戦し続ける事を誓います。

そして本学の歴史に栄えある功績を残せるよう努めていくことを決意し、ここに宣誓致します。

平成23年5月22日

大学院新入生総代

理工学研究科物質工学専攻 浅野芳樹

1 その時、
大学は

2 大学の被災状況

3 地震直後からの
大学の対応

4 地域社会への貢献

5 各学部・委員会
などの対応・動向

6 建物と地盤に
ついて

7 震災を振り返って

資料編